

令和5年度 京都市立嵯峨中学校 学校教育目標

京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども

京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育を目指す。

令和5年度 重視する視点（学校教育の重点）

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。

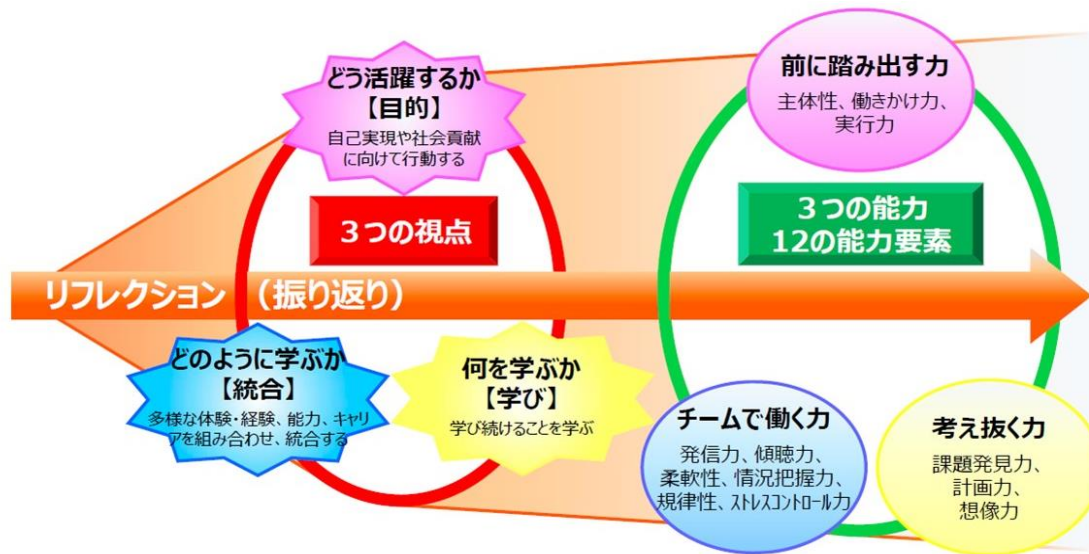
学校運営方針

- ① 主体的・対話的で深い学びを重視し、学びの質を高められる授業実践を行う。
- ② エスノートを日々活用することで、学習・生活について主体的・継続的に計画・実行できるように育成する。また、学校での授業と家庭学習との連動を図り、自学自習の習慣化を図る。
- ③ 地域の人的・物的教育資源を有効に活用した「地域とともにある学校づくり」を推進するなかで、学びと社会のつながり・接続を重視するとともに、「公共の精神」に基づく態度を育む。
- ④ 全教職員が学びの質を高められるよう研鑽し続けるとともに、持続可能な学校教育を実現するために働き方改革を推進する。

学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力の育成を目指す

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。平成29年度には「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



目指す生徒像

「一生懸命はカッコいい!」・「120%の嵯峨中魂!」・「5つの心(素直・反省・奉仕・謙虚・感謝)を磨く!」

自律 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒 【前に踏み出す力】

創造 自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒 【考え抜く力】

共生 多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力できる生徒 【チームで働く力】

目指す教職員像

- 常に学び続け、豊かな人間性がある教職員
- 質の高い授業で勝負できる教職員
- 生徒に寄り添い、愛情と情熱のある教職員
- 誠実かつ迅速に行動できる教職員
- 「チーム嵯峨中」として、互いに学び合い支え合える教職員

学校経営目標

「これからの未来を創造する生徒たちを育てる魅力ある教育活動の実践」

- 生徒が「嵯峨中で学べてよかった」と思える学校
- 保護者が「嵯峨中に通わせてよかった」と思える学校
- 地域が「嵯峨中の教育活動を応援したい」と思える学校
- 教職員が「嵯峨中に勤めてよかった(誇れる)」と思える学校

令和5年度 重点目標と詳細

① 学習指導要領および学校教育の重点のねらいに沿った対応

- 家庭学習の習慣化と日々の授業との連動(振り返りの重視とエスノートの活用)
- グループ活動を通じて「主体的・対話的な深い学び」が得られる授業の実践
- ICT機器の効果的な活用を通じた「情報活用能力」の育成(KYOTO×教育DXビジョン)
- 授業にICTを組み合わせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

② 学校行事・取組の再構築

- これまでの伝統(不易)と新しい時代(流行)に合わせた取組の検討・実施

③ 働き方改革の推進 超過勤務月45時間以内の達成に向けて(令和6年度末)

- 超過勤務45時間以内を目指した働き方を目指す。
- 教職員の意識改革と自己研鑽による資質・能力の向上

※ ○ は継続しての取組 ● は新規の取組

令和5年度 各種指定事業

令和5年度 学校運営協議会推進事業 研究指定校 (京都市教育委員会)